池田市 小中一貫教育通信 No.64

令和4年 1月 12日 発行:池田市教育委員会

小中一貫教育チーフコーディネーターによる小学校(義務教育学校前期課程)での授業

前号に引き続き、チーフコーディネーターによる授業実践を紹介します。

しぶたに学園(加藤先生　国語)

６年生の国語で詩を扱った授業でした。過去の実践で学園の子どもたちが作った詩が教材として使われる場面もあり、小中一貫教育に継続して取り組んでいる良さを感じられる授業でした。子どもたちが積極的に授業に参加している姿が印象的で、子どもと良い関係性を築いていると感じました。チーフコーディネーターが定期的に足を運んでいるからこそできる授業実践でした。

ほそごう学園(松岡先生　理科)

３年生の理科「太陽の光」の授業でした。後期課程の松岡先生が単元を通じて授業を進めており、段ボールで作った実験器具や取り組みやすいワークシートなど、その学年の子どもに見合った工夫がなされていました。移動の負担が少ないことや、普段から前期課程の子どもの様子を知ることができるという施設一体型の義務教育学校のメリットを生かした授業実践でした。

今回の二つの授業から感じたことは「知る」ということの大切さについてです。知っているということは「安心」につながり、逆に知らないということは「不安」につながります。今回の授業では、先生と子どもがお互いを知っていたことで、子どもは安心して学習に取り組めたり、先生は子どもの実態に合わせた授業の工夫ができたりしました。これはチーフコーディネーターが、日々、小学校(前期課程)に足を運んでいる結果だと思います。小中一貫教育も本格実施から８年目を迎え、その取組みは各学園で当たり前のように行われています。しかし、それによって得られている「安心」は当たり前にあるものではなく、各学園のこれまでの取組みの成果です。今後も、小中一貫教育の取組みを通じて、子どもも大人もお互いを知り合い、安心できる学園づくり、授業づくりを推進して欲しいと感じています。

教育政策課　越智